

山浦實一 やまうらひ 政治評論家。明治二十六年二月二十日長野縣生れ、
 昭和四年九月二十六日歿（八三—九七）。筆名山水浦、池上五六、
 物真太郎。上田中學校卒。明治末年小河原素山、岩淵要、世良田優十
 等と同雑誌『落葉』を作り、また若山牧水の師事し、ロシア文學を耽

讀するなど作家を志した。大正八年時事新報社に入社、その後『東京

日日新聞』、『新愛知新聞』、『國民新聞』を経て『讀賣新聞』政治

記者。戦後『東京新聞』編輯顧問となり、コラム「放射線」（池上五

六名）等の反共評論を評判を獲る。戦前鳩山一朗名義の『外遊世界の

顔』（昭和十三年二月—二十一年）日中共論社（を執筆、書中のピットラ

ー贊美が戦後鳩山の入黨追放の原因となりた。二十二年元日、吉田茂

がラジオ放送で一部労働運動指導者として不逞の輩やまやと呼んで物議を醸

した原稿と、その筆が成る。

著書に、『景氣が不景氣が—犬養の・濱口の』（編、昭和五年一月九日

誠文堂）、『小説失はれた政權』（昭和十二年四月二十五日今日の問

題社）、『近衛時代の人物』（昭和十五年十月二十五日高山書院）、

『森格は生きこ居る』（昭和十六年五月二十日高山書院）、『新憲法

の解説』（昭和二十一年十一月二十日内閣府発行、高山書院發賣）、『山

本の政治家』（昭和二十四年十一月

二十五日弘文堂、「アテホ文庫」）、

『日本の顔』（昭和二十七年小説朝

日社）等。

